

2022年10月15日（土）

日本認知心理学会第20回大会

編集委員会企画ワークショップ

機関誌『認知心理学研究』は生まれ変わります

企画： 『認知心理学研究』編集委員会

話題提供者： 北神 慎司 編集委員長 ・名古屋大学

光藤 宏行 副編集委員長 ・九州大学

森田 愛子 副編集委員長 ・広島大学

中島 亮一 編集事務局 ・京都大学

司会： 中島 亮一 編集事務局 ・京都大学

なぜ生まれ変わらないといけないの？

企画趣旨

- 『認知心理学研究』は第20巻を迎えました

しかし！

ここ数年、雑誌が郵送で届くたびに、
「大丈夫？」と思われていた方も
いらっしゃるかもしれません

「大丈夫？」ってどういうこと？



5~9巻

15~19巻

『認知心理学研究』が薄くなっている！



企画趣旨

- なぜこんなことに？
 - **そもそも投稿数が減少傾向**
 - 近年、海外の雑誌への投稿を優先する傾向
 - 「認知心理学研究の査読は遅い」という噂
 - **採択・リジェクト率、取り下げ率（以前と比べると……）**
 - 採択率は若干の減少傾向（≡リジェクト率は増加傾向）
 - 取り下げ率はやや増加傾向



極端な話、
このままでは学会の生命線とも言える機関誌
が廃刊されることにも！？

本ワークショップの目的

『認知心理学研究』を盛り上げたい！



- 2021年度から編集委員会の体制を刷新
- さまざまな改革案について議論
 - 6月の総会で『認知心理学研究』の新たな方向性を披露
 - 少しずつ、新しい手順で査読を進めている
- 本ワークショップ
 - 機関誌として**更なる生まれ変わり**のために
 - これまでの状況の共有
 - 『認知心理学研究』の今後について議論



本日のスケジュール（目次）

1. 企画趣旨の説明（編集事務局：中島亮一） ←いまここ
2. 論文投稿・審査に関するこれまでとこれから（編集委員長：北神慎司）
3. 審査方針は採択率をどう変えるか（副編集委員長：光藤宏行）
4. 今後の査読の基本方針（副編集委員長：森田愛子）
5. 質疑応答（全員）
 - 素朴なご質問や忌憚のないご意見をいただきたいです
 - 会場の学生や先生方、Zoomの向こう側にいらっしゃる方々